

1. ヒロオビナガタムシ *Agrilus sudai* Y. Kurosawa, 1985 (図 1)

1 ♂, 静岡県駿東郡小山町上野, 7. VIII. 2018.; 1 ♀, 静岡県裾野市須山, 23. VII. 2018.

本種は、体長 7 mm 程のナガタムシで、岩手県産の個体を基に記載され (Kurosawa, 1985), 北海道および本州, 四国に分布する。寄主植物であるヤマハンノキ *Alnus hirusta* (カバノキ科) の梢のスイーピングで採集されるが、少ない種とされている (大桃・福富, 2013)。筆者は、ヤマハンノキのスイーピングおよびヤマハンノキ周囲の広葉樹のスイーピングで得ている。

2. イマサカナガタムシ *Agrilus imasakai* Tôyama, 1985 (図 2)

2 ♂♂, 静岡県駿東郡小山町上野, 7. VIII. 2018.

本種は、体長 5–6 mm 程のナガタムシで、長崎県島原眉山産からの個体を基に記載され (Tôyama, 1985), 現在では本州と九州から記録がある。シデ類のスイーピングによって採集されているが稀な種で (大桃・福富, 2013), 前種とよく似るが、以下の点などで区別できる。1) 前胸背板は後方で狭まる, 2) 下側隆線は前方 2/3 に伸び, 側隆線に近づくが結合はしない, 3) 雄交尾器の中央片先端は尖らず, 前種と比較して鈍角となる (大桃・福富, 2013; Tôyama, 1985; 石黒, 2015)。

筆者は、本種をクマシデ *Carpinus japonica* (カバノキ科) のスイーピングにより得ているが、岐阜県では 8 月に同じくカバノキ科のイヌシデ *Carpinus tschonoskii* のスイーピングで得られており (石黒, 2015), 盛夏の山間部各地におけるシデ類を害していると思われる。

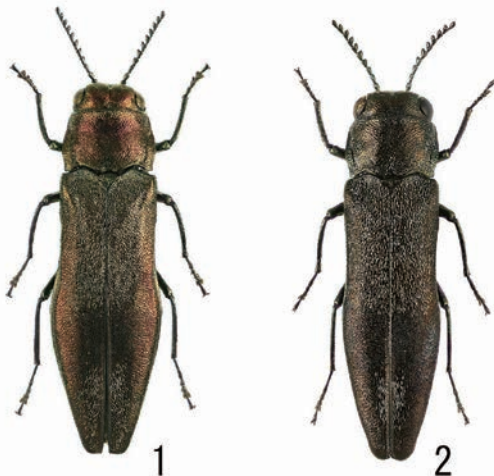


図 1–2. 静岡県産ナガタムシ 2 種: 1, ヒロオビナガタムシ; 2, イマサカナガタムシ。

末筆ながら、同定に際してご教示いただいた福富宏和氏 (石川県ふれあい昆虫館), 原稿の校閲を承っていただいた小島弘昭教授 (東京農業大学) に厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 平井剛夫, 2018. コウチュウ目 . p. 165–344. 平井剛夫・福井順治・諏訪哲夫 (編), 静岡県昆虫集録: 駿河の昆虫編 . 672 pp. 静岡県昆虫同好会, 静岡.
- 石黒昌貴, 2015. イマサカナガタムシの岐阜県における記録 . 月刊むし, (537) : 58.
- Kurosawa, Y., 1985. Notes on the Oriental species of the coleopterous family Buprestidae (IV). Bulletin of the National Science Museum, Tokyo, series A, Zoology, 11 (3) : 121–170.
- 大桃定洋・福富宏和, 2013. 日本産タムシ大図鑑 . 206 pp. むし社, 東京.
- 酒井 舜, 2018. 静岡県初記録のマサキナガタムシとその後食植物 . 月刊むし, (572) : 58.
- 笹倉靖徳・阿閉耕平, 2018. 静岡県および山梨県におけるアムールムツボシタムシの記録 . 月刊むし, (574) : 2.
- 多比良嘉晃, 2005. コウチュウ目 . p. 107–163. 静岡県環境森林部自然保護室 (編), 静岡県野生生物目録 . 198 pp. 静岡.
- Tôyama, M., 1985. The buprestid beetles of the subfamily Agrilinae from Japan (Coleoptera, Buprestidae). Elytra, 13 (1) : 19–47.

(佐伯智哉 243–0034 厚木市船子 1737

東京農業大学昆虫学研究室)

【短報】宮城県からのニセヨツボシテントウダマシおよびベニヨツボシテントウダマシの採集記録

Sogoh & Yoshitomi (2017) によって、日本産のヨツボシテントウダマシ種群が見直されたのはまだ記憶に新しい。それにより、近似の 3 種が日本に確実に産することが明らかにされた。各地に普通にみられ、個体数も多いヨツボシテントウダマシ *Ancylopus pictus asiaticus* Strohecker, 1972 に加え、ベニヨツボシテントウダマシ *A. phungi* Pic, 1926 とニセヨツボシテントウダマシ *A. borealior* Strohecker, 1972 の 2 種の存在が広く知られるところとなったのである。

直ちに関心が集まり、ベニヨツボシテントウダマシについては、各地から記録が矢継ぎ早に報告され (千田・十川, 2018; 亀澤, 2018; 日下部, 2018; 伊藤, 2018; 大川, 2019), 国内に比較的広く分布する実態が急速に判明しつつある。

一方のニセヨツボシテントウダマシの国内における生息情報は、かなり乏しい状態のままである。本種は、もともとベニヨツボシテントウダマシの亜種として中国の南京から記載されたが、Sogoh & Yoshitomi (2017) によって種に昇格されるとともに

日本から初めて記録された。確認されている日本産の標本はわずかで、古い6標本以外には知られていない。それらはすべて北海道大学総合博物館の所蔵標本から見いだされたもので、福島県下の2地点から1948年と1954年に採集されている(Sogoh & Yoshitomi, 2017)。齋藤(2018)は、福島県の記録地“Monden”と“Yugawa”は現在の会津若松市門田町、湯川のことであり、標本の採集者で夭折した永山幸一氏についても詳しく解説している。

筆者は、同じ東北地方からではあるが、宮城県下において本種を確認しているので報告する。

1♂, 宮城県大崎市田尻蕪栗(蕪栗沼), 23. VIII. 2019, 筆者採集, 保管。

宮城県初記録。確認地点は、仙台平野の北部地域、仙北平野に位置し、海拔2mほどの平地である。マガンの集団越冬地として知られており、周辺の水田も含めてラムサール条約に登録されている湿地である。夜間に沼の周縁部のヨシ、スゲ類を水中で踏みつけて浮いてくる甲虫類を採集してきて発見した。

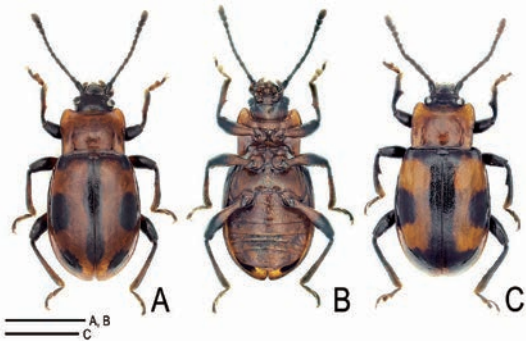


図1. 宮城県産ヨツボシテントウダマシ属2種。A:ニセヨツボシテントウダマシ♂背面, B:同腹面(蕪栗沼産), C:ベニヨツボシテントウダマシ♂(仙台市産, スケールは2mm)。



図2. ニセヨツボシテントウダマシの確認環境(蕪栗沼)。

近似2種とは、雄の中脛節中央付近に目立った歯状突起がないこと、上翅の斑紋パターン、雄の交尾器形態などにより区別は容易である。また、腿節基部の明色部分は3種中もっとも発達するようで、背面から見てもわずかに橙色が確認できる。さらに、ヨツボシテントウダマシ、ベニヨツボシテントウダマシでは雌雄ともに後翅が発達するのに対し、ニセヨツボシテントウダマシでは今回の雄1個体を検したかぎりでは後翅が縮小しており、上翅と同程度の長さしかなかった。肩部も、近似3種中ではややなで肩になっている。

なお、宮城県下で採集されたベニヨツボシテントウダマシも手元にあるので併せて記録しておく。

2♂♂ 2♀♀, 宮城県仙台市若林区種次市兵衛(名取川左岸, 河口より約2km地点), 24. VIII. 2019, 筆者採集, 保管。

近隣の福島県、青森県からは既記録があるが(Sogoh & Yoshitomi, 2017)、宮城県からの記録を筆者は知らない。日中、名取川河川敷のヨシ原に接した高茎草地において、直立したキク科草本の枯れた葉をビーティングすることで採集された。

末筆ながら、現地調査と標本撮影につき合ってくださった菅谷和希氏((株)環境指標生物)、文献入手に際してお世話になった齋藤修司氏(福島市)と大川秀雄氏(足利市)、問合せに応じてくださった尾崎俊寛氏(大館市)に心よりお礼申し上げる。

引用文献

- 伊藤 淳, 2018. 東京都稲城市の甲虫類(7). 神奈川虫報, (197): 12-19.
- 亀澤 洋, 2018. 埼玉県および群馬県からのベニヨツボシテントウダマシの採集記録. さやばねニューシリーズ, (29): 46-47.
- 日下部良康, 2018. ベニヨツボシテントウダマシの東京都、神奈川県、群馬県の記録. さやばねニューシリーズ, (32): 31.
- 大川秀雄, 2019. ベニヨツボシテントウダマシの栃木県からの記録. インセクト, 70(1): 14-16.
- 齋藤修司, 2018. 2017年に記載された甲虫2種と故永山幸一氏について. InsecTOHOKU, (45): 33-34.
- 千田喜博・十川晃一, 2018. 西日本から確認されたベニヨツボシテントウダマシ. さやばねニューシリーズ, (29): 48-49.
- Sogoh, K. & H. Yoshitomi, 2017. A revision of the genus *Ancylopus* (Coleoptera, Endomychidae) of Japan. Elytra, Tokyo, new series, 7(2): 421-438.
- Strohecker, H. F., 1972. The genus *Ancylopus* in Asia and Europe (Coleoptera: Endomychidae). Pacific insects, 14(4): 703-708.

(亀澤洋 〒350-0825 川越市月吉町 32-17)